

ロタウイルス感染症予防接種説明書

1 ロタウイルス感染症について

- ロタウイルス感染症は、ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎です。乳幼児期（0～6 歳ころ）にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染してしまいます。5 歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。
- おもな症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると入院治療が必要になることがあります。5 歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40～50%前後はロタウイルスが原因です。

2 ワクチンの効果と副反応

- 予防接種により、ロタウイルス胃腸炎による重症化予防の効果が認められています。
- 主な副反応として、下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱、咳、鼻水、腸重積症などがあります。また、重大な副反応としては、極めてまれにショック、アナフィラキシー様症状（発疹、呼吸困難など）が現れることがあります。



接種後は「腸重積症」に気をつけましょう



腸重積症は、腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気で、速やかな治療が必要です。ワクチンの接種にかかわらず、3か月から2歳くらいまでの乳幼児がかかりやすい病気です。ワクチン接種後（特に1回目）、1～2週間くらいの間は、腸重積症を発症するリスクの増加が報告されています。次のような様子が一つでも見られた時は、すぐに医療機関を受診しましょう。

- 突然激しく泣く
- 嘔吐を繰り返す
- 便に血が混じる
- ぐったりしていて顔色が悪い
- 機嫌が良かったり、不機嫌になったりを繰り返す

腸重積症のリスクを避けるため

生後2か月～生後12週6日までに

1回目の接種を受けましょう。

（生後15週以降に1回目を受けることは、安全性が確立されていないため、早めに接種しましょう）

3 予防接種のスケジュール

●2種類のワクチンがあり、どちらも同様の効果があります。

2回接種を受けるもの(ロタリックス)と3回接種を受けるもの(ロタテック)がありますので、同じワクチンで、決められた回数の接種をしましょう。




【対象月齢・間隔】

①生後2か月～生後12週6日までに1回目の接種をします。

②前回の接種から27日以上の間隔をあけて、2回目(3回目)を接種します。

2回目は生後24週までに、3回目は生後32週までに完了するようにしましょう。

【接種方法】 経口接種

	1回目	2回目	3回目
接種回数			
接種間隔		1回目から27日以上	2回目から27日以上
接種推奨時期	生後2か月	生後3か月	生後4か月

4 予防接種による健康被害救済制度について

○定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

○健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

○予防接種法に基づく定期の予防接種として定められた期間を外れて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種(任意接種)として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医療品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法と比べて救済の対象、額等が異なります。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、雨竜町住民課へご相談ください。

5 接種後の注意

①接種後30分間は医療機関にいるなどして様子を観察するか、医師とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。

②接種後2週間は副反応に注意しましょう。体調に変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

③接種当日は、激しい運動はさけてください。

④接種後、違う種類のワクチンを接種する場合の日程については、かかりつけ医に相談してください。

6 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行なうことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

●以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）。
- ②重い急性疾患にかかっている方。
- ③その日に受けるワクチンに含まれる成分でアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方。
- ④これまでに腸重積症になった方。または治療を完了していない先天性消化管障害がある方。
- ⑤その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。

●次の方は、接種前に医師にご相談ください。

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。
- ⑤このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ⑥肺炎や中耳炎などの感染症や下痢を繰り返したり、体重の増えが悪かったりしたことがある方。

問い合わせ先:住民課 保健担当 電話 77-2212